



# にじのはし幼稚園 園だより

平成26年 11月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 新井智子



## 努力は夢中に勝てない

園長 新井智子

秋晴れのもと、「にじっこ運動会」がレインボー公園で行われました。地域や保護者の皆様のお力添えで、子どもたちは、日頃遊び、積み重ねてきたことを十分に発揮し、笑顔と満足感いっぱい運動会を終えることができました。ありがとうございました。

それぞれの学年の取り組みをご覧になり、お子さんの成長を感じられたと同時に5歳児の取り組みに「さすが！年長」と感心された方も多いのではないのでしょうか。表現は、グループの友達と考えた創作内容で、実に楽しそうにのびのびと踊っていましたし、リレーは、毎日作戦をたてたり、バトンの渡し方や走り方を自主練習したりして意欲的に取り組んでいました。司会や体操の係も含め、自分たちの運動会として主体的に実に堂々と進めていました。表彰式では、達成感にあふれた表情で輝いていたことが印象的でした。運動会という取り組みを通し、運動だけではなく、喜びや悔しさの感情体験、友達と力を合わせる大切さ、精一杯頑張ることの尊さなど様々なことを子どもたちは学んだことでしょう。

さて、運動会後、家の近くの公園でサッカーをして遊んでいる親子を見かけた時のことです。幼稚園の年中児くらいの男の子が父親に向けてボールを蹴っていました。男の子は、楽しそうに「キツネの蹴り！」と言ってボールを蹴ったり、戦隊ヒーローになりきってボールを蹴ったりしていました。私は、とても微笑ましく見ていました。しかし、私の思いとは異なり、相手をしていた父親は、「ふざけない！真面目にやらないとやめるぞ！」と注意をし、蹴り方や足の運び方を細かく指導していました。男の子は「はい」と返事をしましたが、また何かになりきって「ヤー！」と蹴ったので父親の堪忍袋の緒が切れて「ふざけるのもいい加減にしろ！」と叱られてしまいました。

同じようにもう一組の親子がいました。ソフトボールを使ってキャッチボールで遊んでいました。父親が「これは捕れるか」と言って投げたり、転がしたりしています。男の子は、両手で受け取ったり、足で抑えたりしながら、父親とのやり取りを楽しんでいます。時々父親は投げるタイミングを外し、フェイントをかけます。男の子は、父親の手の動きをじっと見て、捕ることに集中し「捕った！」と声を上げて喜んだり、自分なりに考えたキャッチの仕方を披露しては、父親に「面白いこと考えたな」と笑われたりしています。会話のキャッチボールも面白がりながら、巧みにからだを動かし、遊んでいます。

サッカーの父親の子どもへの熱血指導ぶりは、愛情であり否定はしません。しかし、幼児期はサッカー競技としてのスポーツを教えるのではなく、ぜひ「遊び」として子どもと向かい合うことをお勧めします。遊びの面白さ、楽しさがあるからこそ、繰り返し動き、遊びこみます。時間を忘れ、疲れ知らずに熱中できる遊び、その遊びを通して、自然に体力やからだの巧みさが身に付いていくのです。そして、生涯スポーツの基盤として運動への意欲や態度が培われていきます。

子どもたちの運動技能の獲得を表すことばがあります。それは、「努力は夢中に勝てない」というものです。かつてオリンピック選手が用いたことでも有名になりました。夢中になって無心になって遊ぶこと、子どもがやりたい思い、遊びたい思いを満喫し、思い切りからだを動かすことが幼児期の運動あそびだと思えます。



運動会が終わって、4歳児にダンスを覚えてもらう3歳児。



園庭の畑でサツマイモの収穫をする5歳児。

